

1 教育目標

(1) 本校の教育目標

明治4年(1871年)の「市学校」創設に始まる本校は、本年度で148年目を迎える歴史と輝かしい伝統を誇る学校です。これまで在職した児童・教職員が連綿と築いてきた「梅園の教育」を基盤に時代を見つめ、次代を見通し、校訓「めあてを高くできるまでやれ」のもと、「自ら進んで学び続ける子ども」「豊かな心を持ち思いやりのある子ども」「心身ともにたくましい子ども」を目指します。



(2) 経営方針

- ① 子どもが、自らの目標に向けて自信をもち粘り強く、主体的に活動する教育の推進に努めます。
- ② 子どもが、かかわり合うことで、他から学び、自己肯定感を育てる人間性豊かな教育に努めます。
- ③ 学校・家庭・地域の連携を密にし、周りから広く意見を聞き、学校教育への反映に努めます。

(3) 本年度の重点努力目標

子どもが自らの目標をもち、「やればできる」自信と「できるまでやる粘り強さ」で努力できる梅園の子を育てます。

< 1 > 知 自ら考え 進んで学び続ける子どもの育成

- ① 自ら考え、主体的に生き生きと学び合う授業を展開し、子どもが自ら価値判断し、意思決定をする活動ができるようにします。
- ② 個の特性に応じに応じ、個を大切にしたい指導に努め、子どもが自らの目標に向け、見通しをもって活動したり、その活動を振り返ったりすることができるようにします。
- ③ 各教科・領域での求める子どもの姿を明確にし、学校・学区をよりよく創り上げるなどの活動を通して、基礎・基本的な知識・技能の習得とその活用を通じた思考力・判断力・表現力の育成に努めます。

< 2 > 徳 豊かな心を持ち 思いやりのある子どもの育成

- ① 生命を大切にする心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等を、道徳の時間の授業や各教科の授業等を通して育てます。
- ② 友達などの他者への思いやりの心を広げる指導により、一人一人が認められる場をつくり、自己肯定感・自己有能感の育成に努めます。
- ③ 学年間での交流活動を重視して上・下級生を大切にする心を育てます。特に1年と6年、2年と5年、3年と4年とのペアをつくるなどの異学年交流活動を行います。

< 3 > 体 心身ともに たくましい子の育成

- ① 体育科の授業や体育的行事等の目的的な連携と活動により、自らの目標を設定し、それに向けた活動の一層の充実に努めます。
- ② 部活動の質的な活性化を図り、チームや個人の目標実現に向けた努力を傾けることができるようにします。
- ③ 保健指導の充実に図り、健康的で安全・安心な生活習慣を身に付けることができるようにします。

< 4 > 多忙化解消に向けた取り組み

- ① 集会活動などの校内行事の精選と活動内容の見直しを図ります。
- ② 職員会議・学年会などの会議の時間短縮と実施回数の検討を図ります。
- ③ 部活動の練習時間の短縮、平日週2回の休養日の設定などを見直しを図ります。
- ④ 修学旅行・遠足の同一日の設定

(4) 目指す教師

- | | |
|----------------|---------------|
| ・子どもとともに歩む教師 | ・自らを高めようとする教師 |
| ・使命感にあふれる教師 | ・子どもを見る目のある教師 |
| ・子どもの心に灯をともし教師 | |

- ① 目指す教師像に迫るために、次のような手立てを、年間の教育活動の中に位置づけて実践していきます。
 - ア 授業や学級経営に生きる現職研修の推進をする。
 - イ 全担任が公開研究授業を行い、授業研究の推進をする。
 - ウ 教育論文の執筆に積極的に取り組む。
 - エ 学校の研究主題・研究の仮説・研究の手立てをもとに研究授業を行い、現職研修誌「梅小移山」36集の執筆、発行をする。
 - オ 教員1人1冊の読書記録「この一冊」第57号の発刊をする。
 - カ 運営組織や校務分掌・部活動の取り組みの見直し、及び仕事の精選と効率化を図る。
- ② 学級・学校を開き、家庭や地域との連携を深めるために、次のような努力をします。
 - ア 授業・学校行事の積極的な公開をする。
 - イ 校長室だより、学校・学年・学級の通信やホームページの内容充実と公開、情報の積極的な発信をする。
 - ウ 生活アンケート・学校診断評価を生かした学校経営の推進…学校評議員会の実施年間3回（6月・12月・3月）
 - エ 子どもの安全と安心を守る「梅園見守り隊」との連携強化を図る。